

平成 26 年度 地域在宅医療・包括ケア連携会議

1 目的

桜井保健所管内における多職種協働による在宅医療の支援体制の構築及び充実強化を図ることを目的に会議を開催する。

2 目標

- 1) 管内病院の在宅支援の取り組みを理解する。
- 2) 早期からの退院支援の必要性、在宅医療関係者との連携の必要性について理解する。
- 3) 患者さんの思いに軸をおいた病院と地域のシームレスな支援をするための方策について検討する。



3 共催

橿原地区医師会、桜井地区医師会、宇陀地区医師会
 磯城桜井地区歯科医師会、橿原高市地区歯科医師会、宇陀地区歯科医師会
 奈良県薬剤師会、奈良県訪問看護ステーション協議会
 済生会中和病院、宇陀市立病院、国保中央病院
 (協力) 桜井保健所地域在宅医療・包括ケア連携ワーキングメンバー

4 開催日時・場所

日時：平成 27 年 1 月 11 日（日） 13 時～17 時
 場所：桜井市立図書館 研修室 1（桜井市河西 31 番地）

5 内容

テーマ「病院と地域で患者さんの心を繋ぐ連携のあり方」

1) あいさつ

桜井保健所 所長 山田 全啓
 桜井地区医師会 会長 吉江 貫 氏

2) 桜井保健所の取り組みについて（報告）

3) 基調講演「病院と地域で患者さんの心を繋ぐ支援の在り方」 講師：角田 直枝氏（茨城県立中央病院 看護局長）

4) 現状報告

「地域中核病院における在宅支援への取り組み ～地域包括ケア病棟を中心に～」
 報告者：今川 敦史氏（済生会中和病院 院長）

5) ワールドカフェ

テーマ「患者さんの思いに軸をおいた病院と地域のシームレスな支援とは？」

まとめ

コーディネーター 角田 直枝 氏、今川 敦史 氏



6 対象者

機関名	機関数	対象
診療所	209	医師・看護師
病院	17	医師・看護師 地域医療連携担当者
歯科診療所	141	歯科医師・歯科衛生士
在宅患者訪問薬剤管理指導薬局	86	薬剤師
訪問看護ステーション	19	看護師
地域包括支援センター	13	実務者
居宅介護サービス事業所	117	ケアマネージャー
高齢者福祉施設	介護老人保健施設	11 実務者
	介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	20 実務者
	小規模多機能型居宅介護 支援事業所	9 実務者
	認知症高齢者 グループホーム	25 実務者
市町村	保健担当課	10 実務者
	高齢福祉担当課	10 実務者
合計	687	

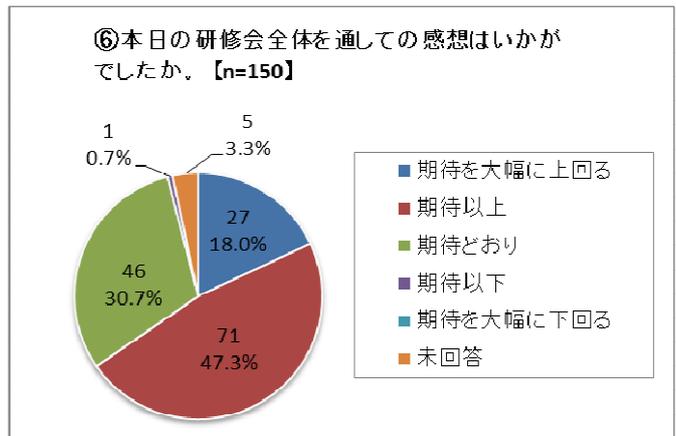
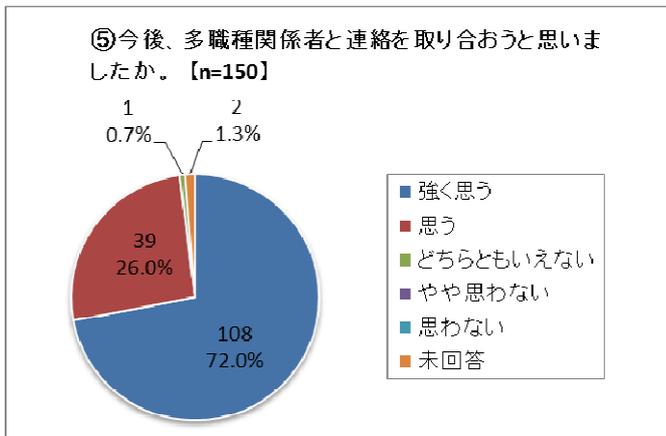
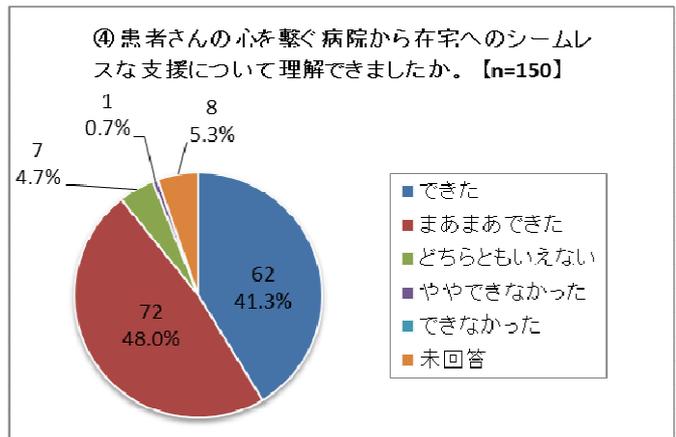
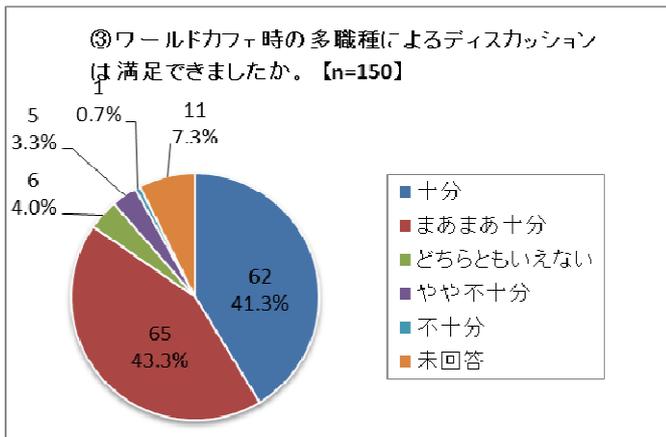
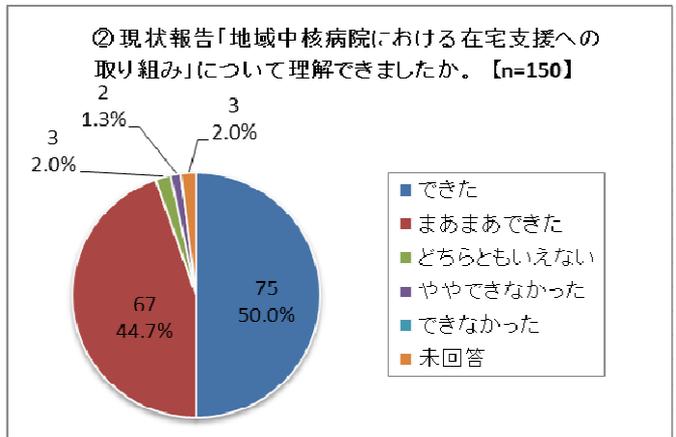
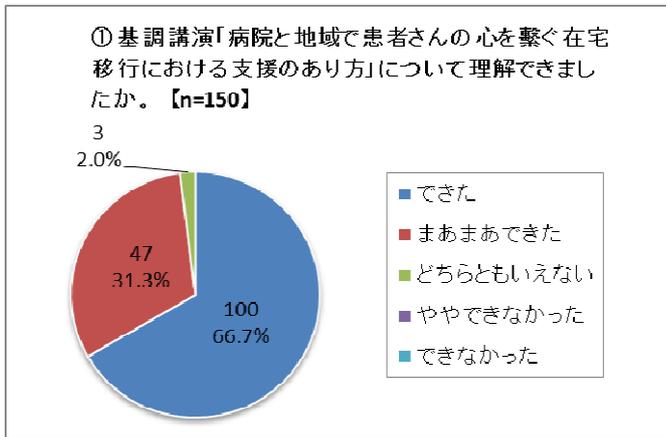


7 参加者数：242名[スタッフ含む]

職種	参加人数
診療所医師	14
病院等医師	10
歯科医師	7
薬剤師	19
看護師（診療所、病院、訪看等）	59
保健師	21
歯科衛生士	6
介護支援専門員	46
理学療法士	5
介護関係	16
社会福祉士	3
精神保健福祉士	2
管理栄養士	2
その他	32
計	242

機関名	参加者数	
診療所	25	
病院	53	
歯科診療所	9	
在宅患者訪問薬剤管理指導薬局	19	
訪問看護ステーション	16	
地域包括支援センター	12	
居宅介護サービス事業所	43	
高齢者福祉施設	介護老人保健施設	8
	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	3
	小規模多機能型居宅介護支援事業所	5
	認知症高齢者グループホーム	4
行政	保健担当課	11
	高齢福祉担当課	11
	県・保健所	9
スタッフ	14	
合計	242	

8 参加者アンケート まとめ 参加者：228名 回収数：150（回収率：65.8%）



⑦本日の研修会で印象に残ったキーワード【複数回答】

多かった回答

多職種連携 情報共有 顔の見える関係づくり

⑧ご意見、ご感想

- ・楽しかったです。是非続けてください。（開業医）
- ・今後急増する支援1, 2等の老人の介護のために地域が支える必要がある。→小地域の多職種会議を開く（開業医）
- ・参加者が多いのに驚きました（歯科医師）
- ・他の職種の出来ることを理解し、在宅にてできることの充実ができるといいと思いました。情報の共有化（公開）が必要と感じました。（薬剤師）
- ・地域包括ケア病棟が患者さんにとって「希望」になるようなものになって欲しいと思いました。薬剤師として何が出来るか考えていきたいと思います。（薬剤師）
- ・今日はとても内容も充実しており、楽しく学んで他職種の方と関わりを持つことができました。ありがとうございました。地域毎でも取り組まないといけないなと思っています。（訪問看護師）
- ・病院側と在宅側でもっと交流を深める場を作ってみては？（訪問看護師）
- ・顔の見える関係づくりは大切かと思いました。情報の共有をどこまでやっていけるか課題。ケアする側が中心になりすぎて、本人、家族の思いがおきざりにならないように気をつけたいと思います。（訪問看護師）
- ・この会に参加させていただいて、地域で活動されている方々を知ることが出来ました。また、いろいろな場に参加したいと思います。（病院看護師）
- ・今回の研修で他職種の方、施設の方と交流がとれ、色々な考えが聞けて、その人の立場に立って考えることが出来ました。もっとこのような交流を続けて行って欲しいと思います。（病院看護師）
- ・事業所さんの参加があまりにも多く驚きました。いろんな職種と関わる機会がないので勉強になりました。（保健師）
- ・顔の見える関係づくりの大切さを強く感じました。（保健師）
- ・多職種の本音が聞けて良かった。（介護支援専門員）
- ・どの職種の方々もそれぞれの情報共有を望んでいることも実感しました。普段は聞くことのできない様々な職種の方々の話が聞け、大変勉強になりました。（介護支援専門員）
- ・包括ケア病棟の内容が分かりました。病院にはなかなか足が向きにくいのですが、情報共有の大切さや病院の求めていることを感じました。（介護支援専門員）
- ・参加して今後より連携を取る必要性を感じました。（理学療法士）
- ・もっとこういう機会が欲しいです。（介護職）

9 評価・今後の課題

- ・昨年度に引き続き2回目の開催となったが、242名の参加があり、今回は、特に病院関係者（医師、看護師、地域医療連携担当者：52名）の参加が昨年度に比べて多く、地域包括ケアへの関心の高さが窺えた。
- ・参加者アンケートでは、基調講演98%、現状報告95%の方が「理解できた」と回答。また、98%の方が「今後、多職種と連絡を取り合おうと思う」と回答していた。印象に残ったキーワードについては、「多職種連携、情報共有、顔の見える関係づくり」が多く、今回の目的であった病院と地域のシームレスな支援に向けて、連携するための必要な方策がイメージ化できたと思われる。次年度は、シームレスな連携に向けて、退院調整の一定のルール化が課題と考える。